

イエスのことば 第5回

「あなたはわたしと何の関係があるのでしょうか。女の方。わたしの時はまだ来ていません。」
(ヨハネ 2:4)

□文脈の確認

1. メシアはユダヤ人の王として来る (マタ 2:2)。そしてメシアの王国では、ユダヤ人のみならず、全世界を治める。
2. イエスをその王であると神が認めたことを確認する記事が3つある。第一にイエスがヨルダン川で先駆者ヨハネから洗礼を受けたときに、聖霊なる神が鳩の姿で現れ、父なる神の声が天から響いたこと、第二にイエスが荒野でサタンの誘惑を受けてこれを退けたこと、第三に先駆者ヨハネがイエスをメシアであると証言したこと、この3つである。
3. 前回は、第三の出来事、先駆者ヨハネがイエスをメシアであると証言したことを見た。そして、それに続いて、イエスの初期の弟子たち5人についての記事を扱った。
 - ① 先駆者ヨハネが、ユダヤ人指導者たちに証言した (ヨハネ 1:19~28)
 - ② その翌日、イエスが近くに来たので、イエスを指して証言した (1:29~34)
 - ③ その翌日、先駆者ヨハネは、イエスが歩いて行かれるのを見て、自分と一っしょにいた二人の弟子 (ヨハネとアンデレ) に、あらためて「見よ、神の小羊」と言った (1:35~36)
 - 二人の弟子たちはイエスについて行った (1:37~39)
 - アンデレは、彼の兄のシモン (ペテロ) をイエスに紹介した (1:40~42)
 - ④ その翌日、イエスはピリポに声をかけた (1:43~44)
 - ピリポは、友人のナタナエルをイエスに紹介した (1:45~51)
 - このようにして、初期の弟子たち5人がそろった。
4. 本日の「イエスのことば」は、それから三日目に、ガリラヤ地方のカナという町での婚礼の祝宴の中で、イエスが母マリヤに語ったことばである。3. ①からは、七日目となる。

□アウトライン

- A) 最初の奇跡
- B) 当時のユダヤ人の婚礼
- C) イエスの最初の奇跡 (ヨハネ 2:1~11)
- D) イエスの時
- E) 母マリヤとの関係

□A) 最初の奇跡

1. ヨハネの福音書が記す7つの奇跡

- (1) 2:1~11 (水をぶどう酒に変える)
- (2) 4:46~54 (王室の役人の息子を癒す)
- (3) 5:1~18 (ベテスダの池の回廊にいた人を、38年間の病気から癒す。安息日)
- (4) 6:5~14 (五千人の給食)
- (5) 6:16~21 (ガリラヤ湖での水上歩行)
- (6) 9:1~7 (生まれつきの盲人の目をあける。安息日に泥を作って盲人の目に塗った)
- (7) 11:1~45 (ラザロのよみがえり)

2. 7つの一番目であり、「最初の奇跡」(2:11)

- (1) 「最初の」とは、単に7つの奇跡の一番目という意味だけではなく、イエスの生涯において最初の奇跡であったということ
- (2) イエスが公生涯でメシアとして立つまで、イエスが育ったナザレの人々は、イエスのことを、ごく普通の子どもとして見ていた(マルコ6:1~3)。このことから、イエスが少年時代に奇跡をしたことはなく、このカナの婚礼での出来事が最初の奇跡であったと考えられる。

□B) 当時のユダヤ人の婚礼

1. 婚約と準備

(1) 婚約

- ① 父親が、息子の嫁を選ぶ
- ② 父親が、花嫁料を支払う

(2) 準備

- ① 花婿は、花嫁のために新居を準備する
- ② 新居ができたなら、花婿は花嫁を迎えに行く
- ③ 花嫁を清めて、婚姻(結婚式)に臨む

2. 式は二部構成:婚姻(結婚式)と婚宴(披露宴)

- (1) 結婚式に参加する人数 少ない < 披露宴に参加する人数 多い
- (2) 披露宴は、7日間続く
- (3) 披露宴の場に、「イエスの母がいた」(ヨハネ2:1)
- (4) イエスと5人の弟子たちも、「その婚礼」に招かれた(ヨハネ2:2)

3. ぶどう酒の重要性

- (1) 7日間続く披露宴のために、ぶどう酒を十分に準備しておく。披露宴の途中でぶどう酒が切れてしまってはいけない。
- (2) 詩 104 : 15 ぶどう酒は、喜びの象徴。この詩篇の箇所では、詩篇記者は、人の心を喜ばせるぶどう酒を造らせてくださる主を賛美している。
- (3) イエスたちが招かれた披露宴において、「ぶどう酒がなくなった」(2 : 3)

□C) イエスの最初の奇跡

1. 母マリヤの依頼 (2 : 3) 「ぶどう酒がありません」
2. 母マリヤに対するイエスの応答 (2 : 4) 「あなたはわたしと何の関係があるのでしょうか。女の方。わたしの時はまだ来ていません。」
3. 母マリヤは手伝いの人たちに告げる (2 : 5) 「あの方が言われることを、何でもしてあげてください。」
4. イエスの指示 (2 : 6~8) 「水がめに水を満たしなさい。」 手伝いの人たちは、水がめを縁までいっぱいにした。→ 「さあ、今くみなさい。そして宴会の世話役のところを持って行きなさい」
5. 宴会の世話役の驚き (2 : 9~10) 世話役はそれを試飲して驚き、花婿を呼んで言った。「だれでも初めに良いぶどう酒を出し、人々が十分飲んだころになると、悪いのを出すものだが、あなたは良いぶどう酒をよくも今まで取っておきました。」
6. この奇跡の結果 (2 : 11) イエスはこのことを最初のしるしとして、ガリラヤのカナで行い、ご自分の栄光を現わされた。それで、弟子たちはイエスを信じた。
 - (1) この奇跡は、イエスが行った最初の奇跡であった。
 - (2) 初期の5人の弟子たちは、イエスと出会ったときに、イエスを信じた(1 : 41、45、49 →50節「信じる」)。この奇跡によって、彼らの信仰はまた一段、進んだ。

□D) イエスの時

1. 母マリヤに対するイエスの応答 (2 : 4) 「あなたはわたしと何の関係があるのでしょうか。女の方。わたしの時はまだ来ていません。」
 - (1) 「わたしの時」とは、イエスがメシアであることを示すしるしを人々の前で行うべき時を意味する。
 - (2) 【補足】その開始時期について
 - ① それは、紀元27年の過越の祭りから始まった(ヨハネ2 : 13~2 : 23)
 - ② イエスの公生涯において、過越の祭りは4回、紀元27年(ヨハネ2 : 13)、28年(5 : 1)、29年(6 : 4、この年の祭りにはエルサレムに行かず、ガリラヤで「5千人の給食」)、30年(11 : 55、12 : 1、13.1、19 : 14)。
 - ③ 4回目、紀元30年の祭りにおいて十字架にかかった。

(3) 【補足】ヨハネの福音書は、この箇所を含め 9 か所で、イエスの時について記している。その具体的な意味は、次のとおり 7 つ。

- ① イエスがメシアであることを示すしるしを人々の前で行うべき時 (2 : 4)
- ② イエスが逮捕される時 (7 : 30、16 : 32)
- ③ イエスがたとえ話で教えるのをやめる時 (16 : 25)
- ④ イエスが死ぬ時 (7 : 8、12 : 23~27)
- ⑤ イエスが復活する時 (17 : 1)
- ⑥ イエスが昇天する時 (13 : 1)
- ⑦ イエスがメシアの王国で王位に着く時 (7 : 6)

(4) 7 つの時の中で、中心的な時は、死ぬ時である。

(5) 【補足】死の時について、その条件は次のとおり

- ① ユダヤ暦第一の月 15 日、過越の祭りのときに、死ぬ。
 - 第一の月は「アビブの月」(出 13 : 4)。バビロン捕囚からの帰還後は「ニサン」の月(ネヘ 2 : 1)と呼ばれた。太陽暦では、3~4 月である。
 - ユダヤ暦の 15 日は、満月。出エジプト記において、イスラエルの民は、満月の夜にエジプトを脱出した。
 - 脱出準備として、イスラエルの民は、家族ごとに 1 頭の小羊 (1 歳の雄) を 10 日に取り分け、傷がないことを見守って、14 日の夕方にこれをほふり、その血を家の戸口の二本の柱とかもいに付けた。日没とともに 15 日になる。夕食は、羊の肉をローストし、種を入れずに焼いたパンと苦菜、これらを旅支度したうえで急いで食べた。
 - 真夜中ごろ、主がエジプト全土を歩き巡り、人も家畜もその中の初子が死んだ。ただし、かもいと二本の柱にある血を見ると、主はその戸口を過越し、滅ぼす者がその家に入って初子を打つことがないようにした。
 - 「先駆者ヨハネの証言「見よ、世の罪を取り除く神の小羊」(ヨハネ 2 : 29)「神の小羊」とは、出エジプト記の過越の小羊をさす。
 - イエスの死の時は、過越の祭りの日、神殿で過越しの羊がささげられる時と同じでなければならない。
 - 場所は、エルサレムで (ルカ 13 : 33)
 - 死ぬ時は、木にかけられること (申命記 21 : 23)
 - 血を流すこと (レビ 17 : 11、ヨハネ 19 : 34)
- ② 過越の祭りであれば、どの年でもよいというわけではない。15 日から三日目、17 日が初穂の祭りとなる年でなければならない。
 - 過越の祭りでは、14 日の夕方に羊をほふって、日没後 (15 日になる)、過越の食事を守る。15 日から 21 日まで 7 日間、種なしパンの祭りが続く。この種なしパンの 7 日間の中で、ある一日が初穂の祭りとなる。初

穂の祭りは、種なしパンの祭りの7日間の中にある安息日の翌日。よって、初穂の祭りは、15日が安息日なら16日、20日が安息日なら21日と、年によって16日から21日までの間の、いずれかの日となる。

- 初穂の祭りは、メシアの復活を予表する。
- イエスが死んで三日目に復活し、その日が初穂の祭りであるためには・・・ユダヤ暦第一の月15日が金曜日、次の16日が土曜日=安息日、そしてその翌日の17日が、初穂の祭りで日曜日=週の初めの日となる。
- 紀元30年は、そのような曜日のめぐりとなる年であった。
- よって、同じ過越の祭りでも、紀元27年、28年、29年のいずれも、イエスの時ではなかった。

□E) 母マリヤとの関係

1. 母マリヤに対するイエスの応答 (2:4) 「あなたはわたしと何の関係があるのでしょうか。女の方。わたしの時はまだ来ていません。」
 - (1) 母親に対する息子の関係は、ある時期を境に、従う関係から尊敬する関係へと移る。
 - (2) このときのイエスの応答も、母マリヤに従う関係では、もはやないことを言明したものだ。従う関係から尊敬する関係へ。「女の方」という表現は、尊敬の念をこめたもの。
2. 【補足】この箇所以外に、母マリヤとの関係などについて
 - (1) 家族について (マタイ 13:55~56) イエスの弟たち4人「ヤコブ、ヨセフ、シモン、ユダ」、そして妹たち。
 - (2) 母マリヤを称賛しようとする発言に対して (ルカ 11:27~28)
 - (3) 身内の者たちがイエスを連れ戻しに来たときのこと (マルコ 3:21、31~35)
 - (4) 十字架上のイエスは、母マリヤを使徒ヨハネに託した。「この時から、この弟子は彼女を自分の家に引き取った」(ヨハネ 19:26~27)。
 - (5) 復活のイエスは、弟のヤコブにも現れた (I コリ 15:7)
 - (6) イエスが昇天した後、母マリヤとイエスの弟たちは、使徒たちと共に祈りに専念していた (使徒 1:13~14)
 - (7) イエスの弟たちのうち、ヤコブは、エルサレムの教会の中で、指導的立場に立つようになった (使徒 12:17、15:12~21、21:18、ガラ 1:18~19、2:9、12)
 - (8) ヤコブは、新約聖書の「ヤコブの手紙」を書いた。彼の弟ユダも「ユダの手紙」を書いた。